

ヘーゲル『論理学』初版（1812 年）441 段落～443 段落

段落	文	頁	行	原文	神山訳	寺沢訳
		152	20	Anmerkung.	註解	注解〔これら二つの大きさの通常分離〕
441	1		21 22 23 24 25 26 27	In der gewöhnlichen Vorstellung von continuirlicher und discreter Größe wird es übersehen, daß jede dieser Größen beyde Momente, sowohl die Continuität als die Discretion an ihr hat, und ihr Unterschied nur dadurch constituirt wird, welches von beyden Momente ¹ als die zum Grunde liegende Bestimmung gilt, die aber nicht allein in einer solchen Größe vorhanden ist.	連続した〈大きさ〉と分離した〈大きさ〉についての通常の表象では、次の点が見過されている。すなわち、これらの〈大きさ〉のそれぞれが、みずからのもとに連続態とともに分離という二つのモメントを具えているという点であり、そして、これらのモメントの区別は、二つのモメントのうち根柢にある規定として通用する一方よってのみ構成されており、この根柢にある規定だけがその〈大きさ〉に現前しているのではない点である。	連続的な大きさと離散的な大きさについての通常の表象においては、これらの大きさのそれぞれが二つの契機を・連続性をも離散性をもそれらのもとに〔顕在的に〕もっているということが、また、それらの区別がつけられるのはただ二つの契機のうちのどちらが根底に存する規定になっているかということにのみよるのであって、そうだからといってこの根底に存する規定だけが当該の大きさのうちに現存しているのではないということが、見のがされている。
	2		27 28 29 30 31 32 33	Dabey aber hat die continuirliche Größe die Discretion nicht so an ihr, daß sie aus Eins bestünde, denn die Eins sind in ihr aufgehoben, sondern als Aussereinanderseyn; sie ist nicht bloße Gleichheit mit sich selbst, sondern die wesentlich das Eins in ihr aufgehoben und aufbewahrt hat, die Gleichheit des Aussersichseyns der Repulsion.	しかし、この場合、連続した〈大きさ〉は、分離というものをみずからのもとに具えるさい、〈一つ〉からなるかのようにして具えるのではなく——というのも、〈一つ〉は連続した〈大きさ〉のうちで廃棄されているからである——、むしろ、〈たがいに外にあること〉として具えるのである。連続した〈大きさ〉は、みずから自身とのたんなる同等態ではない。むしろ、みずから自身との同等態は、〈一つ〉というものを連続した〈大きさ〉のうちで本質的に廃棄しており、連続した〈大きさ〉は、反発という〈たがいに外にあること〉の同等態なのである。	だがその際に、連続的な大きさは、それが一から成りたっているという仕方では離散性をそれのもとにもっているのではない。というのは、もろもろの一は連続的な大きさにおいては揚棄されているからである。そうではなくて、それは相互外在的存在として離散性をもっているのである。連続的な大きさは自己自身とのたんなる相等性ではなくて、一をそれのなかで本質的に廃棄しかつ保存している相等性・すなわち反撥の自己外存在の相等性である。
	3	153	33 34 1 2 3	Raum, Zeit, Materie u. s. f. sind Quantitäten, die eine stätige Größe haben, indem sie Repulsionen von sich selbst, ein strömendes Aussersichkommen sind, das nicht ein Uebergehen in ein Anderes ist.	空間、時間、質料などは、不断の〈大きさ〉をもつ量であるが、それは、それらが、みずから自身と反発することであり、流れるように〈みずからの外に来ること〉だからである。この〈みずからの外に来ること〉は、〈他のもの〉へと移行することではない。	空間・時間・物質等々は、それらが自己自身からの反撥であり・流動的な自己を脱出する運動であり・しかもこの運動が他者へと移行する運動ではないということによって、と切れてはいない大きさをもつ量である。
	4		3 4 5 6	Sie haben die absolute Möglichkeit, daß das Eins allenthalben an ihnen gesetzt werde; sie haben diese Möglichkeit nicht, als die leere Möglichkeit eines bloßen Andersseyns (wie man sagt, es wäre)	それらの量は、〈一つ〉をみずからのもとにいたるところで設定する絶対的な可能態である。それらの量は、この可能態を（《この石の代わりに木が立つこと》は可能なのではないかと言われるよ	それらは、それらのもとでいたるところに一が定立されうという絶対的可能性をもっている。それらはこの可能性を、（この石の代りに一本の木が立っていることが可能である、といわれる場合

¹ 第 2 版、GW では、Momenten.

ヘーゲル『論理学』初版（1812 年）441 段落～443 段落

			7 re möglich, daß an der Stelle dieses Steines ein Baum 8 stünde) sondern sie enthalten das Princip des Eins an 9 ihnen selbst.	うな) たんなる〈他であること〉という空虚な可能性として持つのではない。むしろ、それらの量は、〈一つ〉という原理をみずから自身のうちに含んでいるのである。	のように) たんなる他在の空虚な可能性としてもっているのではなく、それらは一という原理をそれら自身のもとに含んでいるのである。
442	1		10 Umgekehrt ist an der discreten Größe die Continui- 11 tät nicht zu übersehen; diß Moment ist, wie gezeigt, 12 das Eins als Einheit.	逆に反転して、分離した〈大きさ〉のもとでは、連続態を見逃してはならない。この契機は、示したように、統一としての〈一つ〉である。	逆に、離散的な大きさについては連続性を見のがしてはならない。この契機は、すでに述べたように、単位としての一である。
443	1		13 Die continuirliche und discrete Größe können als 14 Arten der Größe betrachtet werden, aber nur insofern 15 die Größe nicht unter irgend einer äusserlichen Bestimm- 16 heit gesetzt ist, sondern unter der <i>Bestimmtheit ih-</i> 17 <i>rer eigenen</i> Momente.	連続した〈大きさ〉と分離した〈大きさ〉とは、〈大きさ〉のく【種】として考察することができが、それは、〈大きさ〉が、なんらかの外面的な規定態の配下で設定されるのではなく、むしろ、【〈大きさ〉独自の】モメントがもつ【規定態】の配下で設定されるかぎりでのことである。	連続的な大きさと離散的な大きさととは、大きさの種類とみなされることができが、しかしそれは、大きさがなんらかの外的な規定態のもとではなく、それ自身の両契機という規定態のもとで定立されている限りでのことである。
	2		17 In dem gewöhnlichen Ueber- 18 gange von Gattung zu Art, läßt man an jene nach irgend 19 einem ihr äusserlichen Eintheilungsgrunde äusserliche Be- 20 stimmungen kommen.	〈類〉から〈種〉への通常の移行では、〈類〉に外面的なんらかの区分根拠にしたがって、〈類〉のもとに外面的な諸規定が来るようにしている。	類から種への通常の移行においては、〔量一般という類から連続的な大きさと離散的な大きさという種への移行の場合とはちがって〕、類のもとに、何らかの類にとって外的な区分根拠にしたがって、外的な諸規定が出てくることを許している。
	3		20 -- Ferner aber geht die continuir- 21 liche in die discrete Größe über, weil jene zwar die 22 Größe in einer Bestimmung ist, aber die Unmittelbarkeit 23 oder Continuität ist nicht die eigenthümliche, immanente 24 Bestimmtheit der Quantität, sondern diß ist das Eins.	—だが、さらに、連続した〈大きさ〉が分離した〈大きさ〉に移行するのは、もちろん、連続した〈大きさ〉がある規定のかたちでの〈大きさ〉だからである。しかし、直接態である連続態は、量がもつ固有の内在的な規定態ではない。この固有で内在的な規定態は、〈一つ〉である。	—またさらに、連続的な大きさは離散的な大きさへと移行する。というのは前者はたしかに〔量の〕一つの規定における大きさではあるが、直接態であるからである、換言すれば、連続性は量の固有の内在的な規定態ではなくて、この固有の内在的な規定態たるものは一である。
	4		25 Oder die Größe hat erst als discrete eine reale Bestim- 26 mung, denn damit tritt der Unterschied oder das Anders- 27 seyn an ihr selbst ein.	いいかえれば、〈大きさ〉は、分離した〈大きさ〉にしてはじめて、実在的な規定を持つのである。というのも、そのことによって、区別である〈他であること〉が〈大きさ〉自身のもとに登場するからである。	換言すれば、大きさは離散的な大きさとしてはじめて実在的な規定をもつ、というわけは、離散性をもつことによって大きさそのもののものと区別ないしは他在が現われ出るからである。
	5		27 Die continuirliche Größe ist nur 28 stätig, ununterschieden an ihr selbst, unterschieden nur 29 gegen die ihr gegenüberstehende discrete Größe.	連続した〈大きさ〉は、ひたすら不断のものであり、みずから自身のもとで区別されず、みずからに対抗する分離した量に対してのみ区別されるのである。	連続的な大きさはただと切れていないだけであり、それ自身のもとで〔顕在的に〕は区別されておらず、ただそれに対立している離散的な大きさに対してだけ区別されている。

ヘーゲル『論理学』初版（1812 年）441 段落～443 段落

	6		29 -- Allein 30 die reale Bestimmung ist in der discreten Größe als sol- 31 cher, den Eins, welche durch ihre Einheit stätig sind, 32 noch nicht vollendet; es gehört dazu noch die Bestimmung 33 dieser ihrer Continuität durch das Eins.	—しかしながら、実在的な規定は、分離した〈大きさ〉そのものにおいては、すなわち〈大きさ〉の統一によって不断にあるもろもろの〈一つ〉においては、まだ完結していない。このためには、〈一つ〉によってそうした〈大きさ〉の連続態となる規定が欠かせない。	—しかしながら、実在的な規定は、離散的な大きさそのものにおいて・すなわちそれらの単位によって連続的であるもろもろの一においては、まだ完成されてはいない。実在的な規定になるのにはさらに、もろもろの一のこの連続性が一によって規定されることを必要としているのである。
--	---	--	---	--	---

平成 27 年度跡見学園女子大学特別研究助成費による成果の一部（Ver.1, 2017/8/12. Copyright© KAMIYAMA, Nobuhiro）